

氏神だより

鎮守の森再発見

緑豊かな国土に恵まれた日本。

その中で私たちの祖先は、自然と共に生き、その象徴ともいえる森を大切にしてきたのです。しかし今日、急速に進む都市化の波の中で、次々と森が失われているのも事実です。

日本人にとって、森とはいったい何でしょう。

答えの鍵は、神さまの鎮まる森―鎮守の森―にあります。

鎮守の森、たんなる自然の森ではなく、神さまの住まう聖なる森、エコロジ―など意識しなかったはるか昔、大自然の中にかみさまを感じた日本人は、身近な森に神社を祀ってきました。そして人々は、神社を、森を、大切に守ってきたのです。

鎮守の森、朝の光に匂い立つ木や花、木漏れ日に映える新緑、あざやかに色づいた紅葉、舞い散る落葉とぬけるような青空、どれもみな、日本の原風景ともいえる景色ばかりです。

鎮守の森。ひっそりと神さまが鎮まり、ほかに何があるわけ

でもない。でも、何となくほつとできる不思議な空間です。通勤や通学、旅行などの途中で鎮守の森を見つけ、ふっと心がなごんだりします。

鎮守の森、あわただしい日々を過ごす私たちが、心のやすらぎを求めることのできる、もつとも身近な場所かもしれません。そうだ、鎮守の森へ行ってみよう。



夜疑神社 社叢

岸和田市中井町2丁目7番1号
ぎ
夜 疑 神 社
宮 司 原 高 幹
TEL 072-445-2191
FAX 072-444-9419

氏子地域

中井地・吉井地・荒地・箕土路地・下池田地・西大路地
大町地・小松里地・額地・額原地・池尻地・並に泉北郡忠岡町北出地・同高月地の各地域

森の効能

ストレス社会と言われる現代にあって、「森」の、人を癒す効果が見直されています。

深い緑からキラキラとこぼれ落ちる木漏れ日の下、木や土の香りを感じ、静寂の中で木々が風にそよぐ優しい音を聞く。想像しただけで、心安らかな気持ちに誰もがなるでしょう。

科学的にも、森林浴がもたらす効能は証明されています。

都市部では、コンクリートに囲まれ空さえ見えない環境の中で人々が生活を営んでいます。

そんな人々であっても、目を閉じてほんの少し想像するだけで、風に揺らぐ木々のざわめきや川のせせらぎを思い浮かべることが出来るのではないのでしょうか。：そう、私たちの中には、遠い祖先が大自然に抱かれて暮らしていた頃の記憶が眠っているのかもしれない。日々の糧を得るたびに、自然界の恐怖におびえるたびに、その中に神々を見出してきた頃の記憶…。

「森」には、芳香物質の効能を超えた、人々の遺伝子に訴えかける何かがあるのでしょうか。

厄除祈願

一般に数え年で男性は二十五・四十二・六十一歳、女性は十九・三十三・三十七歳が厄年です。中でも男性の四十二歳、女性の三十三歳は大厄とされ、その前後を前厄・後厄といいます。心身共に熟年に達し、社会的・家庭的・肉体的な変調や転機の時期であり、重要な節目になることが多いので、これらの歳を災いの多い年とするのは、単なる迷信とも思えません。こうした時、神前に参詣して自ら心を引き締め、誓いと覚悟を新たにすることは非常に意義のあることでしょう。

正月行事のご案内

一日 歳旦祭

にぎり酒を授与(無料)

・午前九時半～午後三時半

浪速神楽奉納

二日 会社・団体・個人の

新年祈祷受付(要予約)

九日～十一日 えびす祭

福笹、吉兆等授与

・九日、十日

甘酒の接待(無料)

夜 浪速神楽奉納

十日 成人祭

十五日とんど焼(メ縄焼き)

・ビニール袋・だいだいは外して、注連縄のみお持ち下さい。

平成二十三年厄年表(数え年)

男性	女性
昭和62年生 25歳	平成5年生 19歳
昭和46年生 41歳(前厄)	昭和55年生 32歳(前厄)
昭和45年生 42歳(本厄)	昭和54年生 33歳(本厄)
昭和44年生 43歳(後厄)	昭和53年生 34歳(後厄)
昭和26年生 61歳	昭和50年生 37歳

※当社では節分(二月三日・木)に厄除祈願を行っております。
午後九時まで随時受付
尚、当日ご都合の悪い方はお電話にて他の日を御予約下さい。

みこ ふくむすめ 巫女・福娘募集

元旦の『巫女』

戎祭の『福娘』の社頭ご奉仕を
していただけませんか。

巫女 一月一日

福娘 一月九日(日)

十日(月・祝)

十八歳以上の未婚の女性。御希望の方は、履歴書(写真要)をお持ち下さい。

御希望多数の場合は、氏子地域内に在住の方を優先とさせていただきます。時間・ご奉仕料等は、お問い合わせ下さい。

日本人の一生

日本人は、人間というものは、自然の恵み、神々の生命の息吹きを受けて誕生してくるものと考えられました。日本の神話では天神の神意を受け、伊邪那岐命・伊邪那美命という造化の神が、日本の霊的な国土を生み、そこにあらゆる生命を生み出したことが記されています。そうした生命の一つとして人間（ひと）が誕生しました。

こうした生命をさらに充実し、よりよき生活を営むために、日本人の一生には年齢の節目ごとに神社にお参りをして、神々の加護を願い、その恵みに感謝する行事が数多く行われます。これらは人生儀礼、年祝いとも呼ばれています。

生後しばらくたつと、初めて神社にお参りを行い、生命の誕生に対する喜びと感謝を捧げる初宮参りが行われます。七歳までの子供は人間として

の生命がまだ不安定なところから、三歳・五歳・七歳の時には、七五三詣の行事が行われ、子供の無事成長を神社で祈願します。

人生の大きな節目として入学式、成人式の折にも神社でお祓いを受け、奉告祭が行われます。人生でもっとも晴やかなのが結婚式です。御神前で三三九度の盃を取り交し、夫婦の契りを結びます。この他にも肉体的にも精神的にも変調をきたすときに、さまざまな災厄を祓うために行う厄除けの祈願や、六十歳の還暦、七十七歳の喜寿、八十八歳の米寿など多くの年祝いが行われます。

日本人はこうした年祝いを重ね、また人生儀礼を通して、その与えられた生命を益々充実させ、神々とともに平和で喜びに満ちた生活を求めてきたわけです。



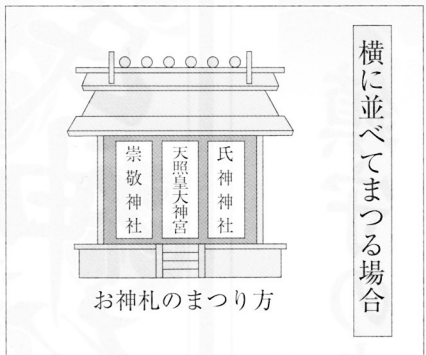
七五三参り

お神札のまつり方

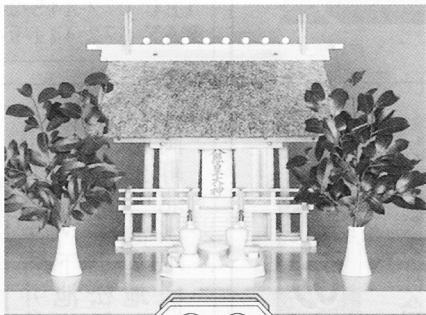
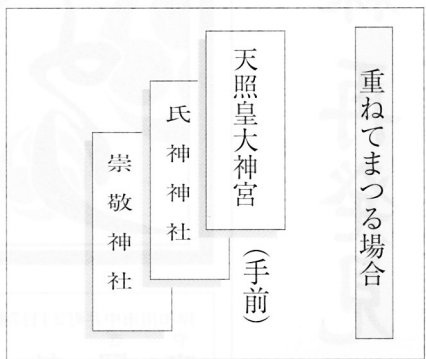
神棚は、目の高さより少し上におまつりし、お神札が南か東に向くのが一般的ですが、間取りによってはおまつりにふさわしい明るく清らかな場所であれば良いでしょう。

また、神棚のない家庭では、タンスや書棚の上に白い紙を敷き神棚が整うまでおまつりするの也不错でしょう。

横に並べてまつる場合



重ねてまつる場合



おまつりの一例

おかげさま…

と、いう言葉

「食べ物を粗末にしてはいけませんよ」、子どもの頃、苦手な食べ物を前に、親からそう言われた思い出はありませんか？

太陽などの自然の恵みや、この世に生きとし生けるものの活力を戴いて、私たちは日々の生命を繋いでいます。お米の一粒一粒にも生命が宿っていることを「残さず食べなさい」、と言われるたびに教えられたものです。

私たちは、大自然や人と人の関わりの中で、生き、生かされています。何かの折にふと口をついてこんな言葉がでてきます。「おかげさまで」。

そう口にするたび、あらゆる恵

みによって生かされているという心を思い出させてくれるこの感謝の言葉は、私たち日本人が抱いてきた素直な気持ちの現れなのです。



古いお神札・お守りの納め方

毎年お神札やお守りを新しくするのは、神様の力のよみがえりを願うからです。そのおかげで家族みんながはつらつとして生きる力に満ちてくるのです。

私たちは、新しいもの、若々しいもの、明るいものを古来尊重してきました。これらのものに宿る生命の息吹を感じ、躍動する精气を尊び大切にしてきましたのです。

一年間、お守りいただいた古いお神札・お守りは、粗末にならない

いよう神社に納めます。

神社では一月十五日の小正月などに浄火によって焼納します。

なお当社ではダイオキシソ問題を考慮し分別の上、焼納致しております。お納めの折りはビニール袋等を外してお納め下さい。また当社の授与品（お守りなど）はダイオキシソを発生しない素材にて奉製するよう順次すすめております。